

医師絶賛!!こんな小さな子が書いた記録は外国にも例がない

全職員が購入し、校内研究で活用する学校が増えています

発達障がい児本人の訴え—龍馬君の6年間—

「小学校の6年間、へんてこな障害のためにぼくはずっと苦しかった。自分ではどうにもならないのにわけわかんなかった。だから、みんなにわかってもらえないなら、先生方には伝えようと思いました。」
(本文より)

教室に10%はいると言われる発達障がいの子どもたち。どの子もできるようになりたいと思っています。教師が正しい理解と指導法を知ることが、子どもたちを救う第一歩となります。

龍馬君(仮名)という発達障がいの6年生が「全ての先生に発達障がいのことを理解してほしい」と自分の小学校6年間の体験を夏休みの自由研究として50ページほどの冊子にまとめました。この冊子に現場の教師の意見や特別支援教育のプロである脳科学の専門家の意見を入れた本が『発達障がい児本人の訴え—龍馬君の6年間—』です。

右のイラストは、この本に書かれている事例をもとに描いたものです。国語の時間のことが書かれています。「空想すること」は苦手なのです。3コマ目のように「選択すること」ならできるのです。教師にとって「たったこんなことで」と思えるような工夫で、苦しみから救われるのです。

教室にいる発達障がいをかかえた子どもたちは、龍馬君と同じ苦しみを感じています。本には次のような事例も書かれています。



▲自分の声の大きさが分からず、音楽の合唱で自分だけ大きな声が出てしまう。



▲顔の表情や身ぶりで何かを伝えようとしても、さっぱり分からない。



▲「もう〇年生なんだから自分で考えて行動しなさい」と言われても、何をすればいいのかわからない。



『発達障害児本人の訴え—龍馬君の6年間—』は東京教育技術研究所 (<http://www.tiotoss.jp/>) からご購入できます。
《Ⅰ. TOSS編》～日本全国のTOSS教師が現場の視点から龍馬君の冊子を分析し、具体的方策を示しています。
《Ⅱ. 逐条解説編》～発達障がい児の脳科学教育臨床のプロである平山諭氏が龍馬君の一言一言を分析し執筆しています。
1冊600円、2冊セットで1000円です。(多くの先生方に手に取っていただくために特別価格となっております)

**特別支援教育に必要なスキルを学びたい方に、必見の冊子です。
TOSSデー福井全会場で、この冊子の詳しい内容を聞くことができます。**

初等・中等教育は、「教えてほめる」「教えて励ます」「教えて考えさせる」が基本です。「教える」ということをしなないと子どもたちは壊されて、自己肯定感もなくなっていきます。

子どもたちを一人残らず幸せにするために、悩み、迷い、つまずいている子どもたちを一人でも多くなくすために、TOSSデー福井会場でともに学びませんか?? 会場でお待ちしております。